

清水小学校地域塾「清水磨崖仏探検」の取組

1 学校名

南九州市立清水小学校

2 学年・人数

1～6年 計16名

保護者・教職員・地域住民 14名

合計 30名

3 日時・場所

平成29年9月16日(土) 午前9時～11時30分

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 名称・時代

清水磨崖仏（きよみずまがいぶつ） 平安時代末期～明治28年

(2) 特徴

清水磨崖仏は、万之瀬川上流右岸の岩壁に彫られた磨崖仏群で、五輪塔や宝篋印塔等の仏塔が主体である。平安時代末期と推定される大五輪塔から、明治28年に吉田知山が彫刻した十一面観音像等まで、各時代にそれぞれの目的で彫刻された。平成29年度に初めて発掘調査が実施され、鎌倉時代と推定される火葬人骨、室町時代の五輪塔2基、江戸時代の用水路が発見された。

5 保存会や地域との連携の具体

清水地域塾は、平成16年度に当時のPTA会長と学校長が週休2日制で学校が休みとなった子どもたちに、人や自然と関わりながら遊ぶ楽しさを感じて欲しいということで、学校独自の活動として始まった。当初、運営はPTA役員が中心となっていたが、後に校区公民館で運営するようになった。

今回は、夏に発掘調査が行われ、報道等で話題となった鹿児島県指定文化財の清水磨崖仏について、市教委文化財課職員を講師に迎え学習した。

6 活用の取組の工夫した点

当初は、現地で発掘調査の成果について説明を聞き、磨崖仏について学習

する予定であった。しかし、台風接近が予想されたため、前日に講師と打合せの上予定を変更し、地区公民館での講座形式とした。今回は保護者以外にも清水磨崖仏に関心のある地元住民に呼びかけ、参加してもらった。

磨崖仏全般と周辺の関連史跡に関する資料、発掘調査の速報資料を使用した講義の後、今回出土した火葬人骨を観察しながら説明を受けた。

7 取組の様子



「講座の様子」



「火葬人骨の観察」

8 参加児童・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【3年児童】

昔の人の骨が残ってるんだなとびっくりしました。磨崖仏のある岩屋公園や清水小学校のまわりには古いものがたくさんあることが分かりました。毎日学校の行き帰りや遊び時に見ているけれど、これからもいろいろと勉強したいと思いました。

【教職員】

清水磨崖仏全般に関するお話を聞き、約700年前の鎌倉時代の火葬人骨を拝見したことで、当時この清水にどんな人たちが住み、どんな生活をしていただのか興味がふくらみました。清水磨崖仏は児童や地域の方にとって身近な文化財ですが、これまで以上に関心を高め、地域の宝として大切にしたいと思います。